

インフルエンザ予防接種（説明書）

川島町健康福祉課
健康増進グループ

〈注意〉接種を受ける前に必ずお読みになり、ご理解のうえ接種を受けてください。
※新型コロナウイルスワクチンとインフルエンザワクチンの接種は2週間あける必要があります。

1 インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる全身に症状の出る感染症です。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをすることにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。

2 インフルエンザの症状

突然の高熱・頭痛・関節痛などで、のどの痛み・咳・鼻水などもみられます。普通の風邪に比べて全身症状が強いのが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。

3 インフルエンザの予防

ワクチンを投与することで体内に抵抗力をつくり、病気にかかりにくくしたり、かかっても重くならないようにするには、予防接種が有効です。感染の広がりには、空気の乾燥が関連してきます。室内の乾燥を防ぎ、外出時にマスク、帰宅時にはうがい手洗いは、普通のかぜの予防にもなりますのでお勧めいたします。

4 予防接種を受けることができない人

(1) 明らかに発熱のある人

一般的に、体温が37.5度を超える場合を指します。

(2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性もありますので、その日の接種は見合わせるのが原則です。

(3) インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシー・ショックを起こしたことが明らかな人

「アナフィラキシー・ショック」というのは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗・顔が急に腫れる・全身にひどいじんましんが出る・吐き気・嘔吐（おうと）・声が出にくい・息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

(4) その他、医師が不適当な状態と判断した場合

上記の(1)から(3)に該当しなくても、医師が接種不適当と判断した時は接種できません。

裏面もご覧ください

5 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- (1) 心臓病・腎臓病・肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- (2) 以前にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱・発疹（ほっしん）・じんましんなどのアレルギー反応を呈する異常がみられた人
- (3) 以前にけいれんを起こしたことがある人
- (4) 以前に中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことがある人
- (5) インフルエンザ予防接種の成分、又は鶏卵・鶏肉・その他鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人

6 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- (1) 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- (2) インフルエンザワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- (3) 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- (4) 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

7 インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が、赤味を帯びたり・はれたり・痛んだりすることがありますが、通常は2～3日のうちに治ります。また、僅かながら熱が出たり、寒けがしたり、頭痛・全身のだるさなどが見られることがありますが、通常は2～3日のうちに治ります。また、接種後数日から2週間以内に発熱・頭痛・けいれん・運動障害・意識障害の症状が現れる等の報告があります。

8 副反応が起こった場合

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に他の病気が、たまたま重なって現れることがあります。

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん・繰り返す嘔吐・顔色の悪さ・高熱などが現れたら、医師（医療機関）の診察を受けてください。

インフルエンザの予防接種は、
体調の良い時にお受けください。

